

「素晴らしい福音」ローマ10：1-15 12・8・26 I 私達は、主を信じ、救われ、主の素晴らしさを知り、主を伝えたいと思う時期もあるが、ある時は、心が冷えて、主を伝える情熱がなくなる時もある。「あなたは初めの愛から離れてしまった」黙2：4。 II そのような時、どうすれば霊的に回復するのだろうか。1. 「あなたは、どこから落ちたかを思い出し、悔い改めて(自分罪を認め告白する、幸いな赦しを得る)、初めの行い(「ねばならい」という律法主義ではなく、主と福音を喜び、主と親しい交わりをする。そこから生まれる生きた行い)をしなさい」黙2：4。 2. 主の恵みを数え、ノートに記し、静かに思い起こし、恵みを味わい続ける。「主のすばらしさを味わい、これを見つめよ」詩34：8。パウロの伝道の聖なる情熱の秘訣→「私の主であるキリストを知っていることのすばらしさのゆえに」ピリピ3：8。彼は、冷えた心で無理をした伝道ではなく、主と主の福音の素晴らしさを味わい知り続けていたので、こう言った→「私としては…ぜひ福音を伝えたいのです。私は福音を恥とは思いません(むしろ最高の喜び、誇り、伝えたい宝です。「主イエスの御名のためなら…死ぬことさえも覚悟しています」使徒21：13)。福音は…信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です」ローマ1：15, 16。「私が心の望みとし、また彼らのために神に願い求めているのは、彼らの救われることです」10：1。 III 福音の素晴らしい内容。父なる神の愛。「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者がひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」ヨハネ3：16。主イエス・キリストの恵み。「自分から十字架の上で、私たちの罪(不品行、汚れ、偶像礼拝、高ぶり、憎しみ、恨み、ねたみ他)をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義(神との正しい関係)のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです」I ペテロ2：24。聖霊なる神は、この福音を私たちの心に教え、信じる信仰を与えられる。「聖霊によるのでなければ、だれも、『イエスは主です』と言うことはできません」I コリ12：3。至れり尽くせりの何という素晴らしい恵み！神に心から感謝したい！もう一つの大きな感謝→「聞いたこのない方を、どうして信じることができるでしょう。宣べ伝える人がなくて、どうして聞くことができるでしょう」ローマ10：14。神が、私たちに福音を伝える人を遣わして下さった大きな恵みを心から感謝したい。福音を聞けなかったら主を信じることは決してできなかった。この福音のバトンを自分で止めないで、今度は、私たちが福音を伝えることを神は喜ばれる。 IV 福音の伝え方。聖書は素晴らしい。その事も教えて下さる→1. 「私はだれに対しても自由ですが、より多くの人を獲得(主のもとに導く)するために、すべての人の奴隷(福音を言葉だけで伝えるのではなく、

まず主の愛をもって仕え、語る前に、聞き、関係作りを大切にするとなりました」Ⅰコリ9：19。2.「ユダヤ人にはユダヤ人のように…律法の下にある人々には、…律法の下にある者のように…律法を持たない人々に対しては…律法を持たない者のように…弱い人々には、弱い者に」：20-22。①相手に合わせ罪を犯し妥協するのではなく、かつ、主からの愛で人々に仕えて行く。聖なる神であるイエス様が、最高の模範。主は、天から降りて人々の間に住まわれた。罪と妥協せず人々を愛された。②主をお伝えする伝道、宣教は、ワンパターンではない。1つの方法が、すべての人に用いられるわけではない。それ故にそれぞれの働きの為に祈りたい。聖書配布、福音放送、アルファコース、ゴスペル、集会のチラシ、HP、全世界に神が建てられた主の体である教会の其々の礼拝（神が臨在される）、サニーキッズ、クリスマス集会や色々な集会。③心に御聖霊、主が住んでおられる私たちの職場、学校、家庭での振舞い。「神はいつでも、私たちを導いて…私たちを通して、キリストを知る知識のかおりを放ってください」Ⅱコリ2：14。④私達が体調や事情で伝道の働き（国内外の伝道の場）に参加できない時も、祈ることで参加できる。教会員が人々の救いの為に心を合わせ祈る時、それは教会のわざとなり祝福される。「私のため、私とともに力を尽くして神に祈ってください」ローマ15：30。Ⅴ大きな励まし。1. 私達に分、霊的な責任は、祈りつつ福音の種を蒔く事。人を変えたり救ったりはできない（それができるのは神のみ）。「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい」Ⅱテモ4：2。蒔かれた後、芽を出させ、成長させるのは神の分、わざ。「私が植えて（伝道）、アポロが水を注ぎました（牧会）。しかし、成長させたのは神です」Ⅰコリ3：6。2.「あなたのパンを水の上に投げよ。ずっと後の日になって、あなたはそれを見いだそう。…朝のうちにあなたの種を蒔け。夕方も手を放してはいけない。あなたは、あれか、これか、どこで成功するのか、知らないからだ」伝11：1、6。御言葉のパンを与え、福音の種を機会あるうちに蒔こう。神は無駄にせず、神の時に芽を出させて下さる。子供にも年輩の方にも。すぐ目に見えなくてもがっかりしない。「あなたがたは自分たちの労苦が、主にあってむだではないことを知っているのですから」Ⅰコリ15：58。世界中の教会が主にあって繋がり、種を蒔き、霊的な刈り入れをする。神の不思議なご計画と摂理、支配の中で。3. 御聖霊の豊かな働き。「聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。…わたしの証人となります」使徒1：8。「天の父が、求める人たちに、どうして聖霊を下さらないことがありますか」ルカ11：13。御聖霊が、私達に、地域に、救われるように祈っている人々に臨まれるように祈りましょう。神は、すべての人が救われて、真理を知るようになるのを望んでおられます」Ⅰ

テモ2 : 4